3、石井方式漢字指導法の研究と実践

石井方式漢字指導については夏休みの前から話題になり、足立校長は夏休みに石井先生をお呼びしたらと提案されたが、研究主任としては今お呼びしても態勢が整っていないことを理由に「もう少し持って下さい」と延期してもらった。

そうして出東市立図書館にあった『私の漢字教室』を借りて回し読みしたり、『石井方式漢字の覚え方』『石井方式漢字の教え方』（学燈社）を書店で見つけて勉強会を続けていたが、漢字調査の結果「漢字に目を触れる機会を多くすることが漢字を覚えることにつながる」との確信を一層強くした。そこで石井先生が提唱なさっている二つ目の基本原理「社会科用語は社会科で、理数科用語は理数科で提出し指導すべきである」……には全面的に共鳴し、実践を更に進めることにした。

即ち、他教科での漢字指導（板書して読むだけ）をより積極的に行うと共に掲示物はもちろん、学校・学級の連絡・通信プリントにも出来るだけ多くの漢字を使用した。また、児童会主催で全校の「漢字読み方大会」をしたり、漢字クイズで関心を高める工夫もした。校報を通じて保護者の関心を高め啓発にも力を入れた。

一方、読書指導に力を入れ、当時の金で 100 万円近くの教育振興費を全額児童用図書や教師用図書（大修館の『大漢和辞典〈13 巻〉』、小学館の『日本国語大辞典〈20 巻〉』他）購入費にあててもらった。